

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1191800281		
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム草加松原		
所在地	〒340-0041埼玉県草加市松原2-1-2		
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年11月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>自立支援:利用者様のエンパワメント 今できることの「維持」・今までのできなかったことをできるようにする「向上」を目的に毎月「サービスの質の向上」に関する研修を実施。</p> <p>行事:日常・非日常の提供 家事等参加によりできる限り役割をもっていただき日常生活の充実を図る 毎月行事を行い普段とは違う楽しみを感じていただき、ストレス軽減を図る</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>・管理者が変わり、入居者、家族、職員そして地域とのコミュニケーション作りを力を入れ、ツールの整備にも取り組まれている。特に入居者の毎月の様子、生活ぶりを各居室担当がお便りで伝えるなどの工夫も図られ、周囲からは「はなまるホーム便り」と並んで、「毎月の様子が良くわかるコメントがありがたい」などの評価も得られている。</p> <p>・運営推進会議については、現在は書面開催で、家族、団地管理事務所や自治会、「見守りネットワーク」や薬剤師などの方々には手渡しで配布し、家族からは意見や質問、感謝の言葉なども寄せられている。</p> <p>・目標達成計画の達成状況についても、サービスの質の向上を目的に研修の強化に取り組まれ、身体拘束や災害対策などで行われたことから目標が達成されている。さらに運営推進会議の中で、薬についての勉強会なども今後検討されている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社是」「企業理念」を掲げ、「グループホームとは」「認知症ケアとは」について日々共有している	「奉仕の心」を持ち誠実な気持ちで他者に接する社是の考え方が職員に理解されている。入居者を「認知症」として見るのではなく、人として見ることを意識するよう日ごろから指導され、理念を基本に支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	団地内にある「見守りネットワーク」に週1回に通っている  ※コロナ禍により中止中	これまでは自治会などとも協力し合い、様々なつきあいが行われていたが、現在は制限のある中、地域の散歩や買い物外出などに出かけられている。地域の高齢者の安否確認を行う「見守りネットワーク」活動などへの参加も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・相談は常時受付中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の意見より毎月の「ご様子」「通信」を2021年1月より開始	現在は書面開催で、団地管理事務所や自治会、「見守りネットワーク」や薬剤師などの方々には手渡しで配布し、意見や返事、質問なども寄せられている。今後は少しずつ会議を実施する方向で、「薬の勉強会」や「体験マッサージ」なども検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営上の不明点・質問等は相談するようになっている  外部研修の取組も共有し無理のない範囲で参加している	日常的には市担当者とはメールによる情報共有が図られ、コロナワクチン接種情報も開始日時や要領について問い合わせも行われている。また、実地指導時に書類表示についての指摘があり、電話や実際に訪問等で相談しながら進められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化委員会」「身体拘束適正化研修」を設け具体的な行為に関して共有している	「奪う介護はしない」を基本に、「危ないからダメ」ではなく危険を取り除くのが職員の仕事と捉えたケアが行われている。身体拘束適正化委員会も定期的開催され、研修や「虐待の芽チェックリスト」でのセルフチェックなども実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要などときには関係者と話し合い情報を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明を実施、納得の上同意をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等を通して意見反映に努めている	家族からは運営推進会議の議事録や毎月のお便りを通して要望や意見が寄せられている。入居者からは「外に出たい」、「お寿司が食べたい」などの希望が出され、ドライブに出たり、みんなで寿司のテイクアウトを取りに行くなどの支援がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し意見反映に努めている	フロアを超えた事業所全体の連絡帳が整備され、職員からの意見や要望などを記載し、フロア間の情報共有が図られている。管理者は聞き役になり、職員からの意見などが出しやすい環境づくりに努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期下期に目標設定・評価を実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社研修、施設内研修、施設外研修の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	草加市グループホーム連絡会に参加  ※コロナ禍により中止中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時はラポールの形成を最優先し、その上で真のニーズを導き出す		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時はラポールの形成を最優先し、その上で真のニーズを導き出す		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「小規模多機能型居宅介護」と併設の為常に幅広く情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り「役割」をもって生活が出来るよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「ご様子」や「通信」を通じて意見交換、情報共有に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「地域密着型サービス」に則り利用者様の多くが、松原団地で生活をしていただいております。なるべく環境を変えないよう努めています	同じ地域からの入居者が多いので、昔から馴染みの地域の話や動画を観たり、歌や体操なども楽しんでいます。小規模多機能型居宅介護サービス利用時から知り合いだった入居者もおられ、交流が続けられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の自発的な行動や発言を大切にできるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係性を大切に相談を受付けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難時ほど本人、家族と密に話し合いを実施している	戦艦のプラモデルを趣味の合う職員と一緒に作るなど、仕事や好きなこと、趣味などを通して思いや意向の把握に努められている。「思いを聴きだすのは職員の腕」を捉え、それぞれの様子を見ながら、何気ない会話を通して取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「生活歴」の提出(任意)を求めている また、過去の写真の持込(任意)も求めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気づき」に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施している 計画作成時は家族の意見反映に努めている	居室担当の考えが反映された、わかりやすく、ニーズや目標が明確に記載された介護計画が作成されている。また、更新時などには家族との話し合いから意見や要望をお聴きし、作成後は電話で説明し、郵送で同意確認も実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス時は日々の記録を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者様の立場に立って行動するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	団地内にある「見守りネットワーク」に週1回に通っている  ※コロナ禍により中止中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携を図り一人ひとりが適切な医療を誠実かつ高潔に提供できるよう努めている	協力医療機関の往診前には、職員から入居者の状況を流すなどして適格な医療サービスが受けられるよう取り組まれている。医療機関の選択は自由で、かかりつけ医への受診時には事業所から医師への申し送りを同行家族に持参いただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(週1回)と密に連携を図り一人ひとりが適切な医療を誠実かつ高潔に提供できるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族、医療機関、施設で話し合いを行い本人本位でのできるだけ早い退院が出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の心の変化に細心の注意を配り、本人にとって、家族にとって一番いい形をとれるよう努めている	重度化や終末期に際しては、入居者の状態の変化をこまめに家族に伝え、家族の「心の揺れ」のフォローにも取り組まれている。看取りも経験され、家族との十分な話し合いを持ち、職員を一人にせず管理者と一緒に立ち会うなどの対応もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応フローチャートを作成して共有、実践・事例を通して実践力向上に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時避難経路の掲示をするとともに年2回の訓練を実施	火災想定をメインに年2回、法人全体での合同訓練が実施され、設備や備品の点検や緊急連絡先の統一などに取り組まれている。また、先般の大きな地震の際には、家族に電話を入れ、入居者の安全を伝えると同時に家族の安全確認も実施されている。	建物の上階であり、災害発生時の入居者の効率的な避難方法の構築が必要と想定されることから、実際にシートを利用した運び方などを訓練実施することで、職員が身に付けるよう取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に「入社時確認マニュアル」を通して指導している	接遇マナー、身だしなみ、個人の尊重、プライバシーの確保などについて、入社時の教育を中心に行い、基本を身につけるよう取り組まれている。また、外で入居者の名前を出さないことや、写真使用での同意を得るなど個人情報についての配慮もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている	献立は食材に合わせてその日に決め、入居者は包丁を持って調理に参加されたり、食器洗いなども分担して行われている。誕生日にはケーキを出したり、ノンアルコールビールや焼肉、流しソーメンなど多彩なイベント食も楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めると同時に、歯科往診(週1回)による口腔ケア・治療(任意)を受けられるよう確保している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている おむつ外しの実績あり	オムツ使用を当たり前と思わないこと、なくても大丈夫ではないかと常に感じることを基本に自立を目指した支援が行われている。入院から入所された時にもその日のうちにオムツを止めることで、トイレ排泄ができるようになった事例も伺われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている	その日の気分や体調を考慮しながら、週2回は入浴できるよう取り組まれている。自立の入居者には浴室の外で待機し声掛けを行い、また、入浴中は出身地のことや働いていた頃の話等を伺うなど、コミュニケーションも楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている また、担当薬剤師との連携図り、減薬に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている  ※コロナ禍により一部制限	これまでは職員のアイデアで海に行ったりすることもあったが、現在は制限がある中、近隣の散歩やコンビニでの買い物、駐車場で日光浴などの支援がなされている。職員が工夫して「お花見ドライブ」が実施され、楽しい姿はお便りで家族にも伝えられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お小遣い立替金制度」により、自由に買い物が出来るよう努めている  ※コロナ禍により中止中		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はもちろん、LINEを使用したオンライン面会を実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている	家庭に近い雰囲気作りにプラスして旅館を思わせるつくりにもこだわり、入居者はリビングに集まることが多く、体操レクなどを楽しんでいる。また、隣の幼稚園から聞こえる子供たちの声を聴いたり、窓から運動会を応援するなどの生活を送られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「過去の写真」「生活歴」の提出(任意)を求めている また、その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている	その人らしさが感じられる居室作りへの支援がなされ、その人をイメージしやすい、懐かしい写真などが飾られている。「居室は入居者の家である」との意識から、それぞれに仏壇や冷蔵庫などを持ち込まれ、穏やかで安全な生活ぶりが伺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その日、その時、その瞬間の状態の「把握」「気付き」に努め、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		

(別紙4(2))

事業所名: はなまるホーム草加松原

## 目標達成計画

作成日: 令和 3年 12月 2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員の入れ替わりが数名あったため、今一度、火災・災害時の対応について周知・訓練を行う必要がある	建物が上段であり、災害発生時の入居者の効率的な避難方法の構築	実際にシーツなどを利用した運び方などの訓練の実施	6ヶ月
2	23~28	細かいところの気づきや気配りが行き届いていない	サービスの質の向上	サービスの質の向上を目的とした施設内研修の実施	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。